

長寿NST ニュースレター

平成 25 年 10 月

当センター嚥下食における約束食事箋の見直し

嚥下食は、摂食・嚥下障害者を対象とする、物性や食形態を重視した食事の総称であり、摂食・嚥下機能の評価レベルに対応する“嚥下訓練食”“嚥下食”“介護食”の3つで構成されます。その中で、当センターでは“嚥下訓練食”の考え方に基づき嚥下食の約束食事箋を作成してきました。“嚥下訓練食”とは、脳卒中患者など発症後しばらくの間は絶食であり、症状の安定を確認後、開始食（ゼリー形態）から始め、徐々に嚥下難易度の高い食事へ移行していく食事内容を指します。

近年では超高齢社会に伴い、加齢や認知症が原因による嚥下障害など、嚥下機能が徐々に低下していく又改善が見込めないケースも増加しています。当センターはリハビリテーション科や言語聴覚士、摂食・嚥下障害認定看護師により、嚥下機能評価においては大変充実したスタッフ構成になっています。また患者に

よっては、開始食や嚥下障害重度の食事として扱ってきたゼリーについても窒息の危険性があり“ゼリー形態禁止”など食形態の個人対応も増えてきました。患者個々の機能に合わせた食事提供を行うには、従来の段階的な“嚥下訓練食”だけでは対応が不十分な状況になってきました。そこでどの評価レベルにおいても個々の必要栄養量を満たすことができる“嚥下食”を作成する必要があると感じます。先月9月20日、嚥下食の基準となる「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2013（学会分類 2013）」が発表されました。これに基づき、当センターの嚥下食約束食事箋の見直しを行います。

これより、具体的な変更点について述べさせていただきます。従来の“嚥下訓練食”は継続致します。段階的に食事形態をアップさせる際には

“嚥下訓練食”を選択下さい。また食事開始をとろみ形態から始めるための嚥下訓練食 t（thick：とろみ）を新しく設けることとし、以前の嚥下訓練食 I は嚥下訓練食 j（jelly：ゼリー）と名称の変更を致します。さらに、従来の“嚥下訓練食”に加え、ゼリー・とろみそれぞれの形態で必要栄養量を満たすことのできる“嚥下調整食”を新たに追加します。とろみについては、薄い、中間、濃いと3段階の粘度に調整した食事基準を作成します。同じ評価レベルで継続的に管理する際には“嚥下調整食”を選択下さい。なお、ゼリー・とろみが混在した食事が適している患者に対しては、従来からある“嚥下訓練食Ⅲ（今回より名称を嚥下調整食Ⅲへ変更）”を選択下さい。

切り替えは12月初旬を目途に進めてまいります。ご不明点などありましたら、栄養管理室までご連絡ください。

【新設される嚥下食約束食事箋(案)】

食種名称(仮称)	学会分類 2013	食形態	I補給(kcal)	使用目的
嚥下訓練食 j	0 j	ゼリー	100	絶食より開始する場合 / ゼリーによる直接訓練をする場合
嚥下訓練食 t	0 t	とろみ	100	絶食より開始する場合 / とろみによる直接訓練をする場合
嚥下調整食 1	1 j	ゼリー	1000~1600	ゼリー形態のみで継続的に管理する場合
嚥下調整食 2 a	2-1	とろみ(薄い)	1000~1600	薄いとろみ形態のみで継続的に管理する場合
嚥下調整食 2 b	2-1	とろみ(中間)	1000~1600	中間的なとろみ形態のみで継続的に管理する場合
嚥下調整食 2 c	2-1	とろみ(濃い)	1000~1600	濃いとろみ形態のみで継続的に管理する場合
嚥下調整食 3	1 j・2-1	ゼリー・とろみ	1000~1600	ゼリー・とろみ形態で継続的に管理する場合
嚥下調整食 4	3	きざみとろみ	1200~1700	きざみとろみ形態で継続的に管理する場合

NSTラウンドの時間変更について
11/6(水)より、ラウンド時間が15:00からと変更となります。よろしくお願ひ致します。

NOGG セミナー 11月1日(金) 17:00~ もの忘れセンターカワカミルーム
 演者: Jean-Pierre Michel 先生 (欧州老年医学会会長)
 演題: 「Age-related muscle loss: nutritional & exercises intervention outcome」
 (加齢に伴う筋肉の喪失: 栄養と運動の介入結果)

第67回 国立病院総合医学会
 日時 2013年11月8日(金)~9日(土)
 会場 金沢県立音楽堂・ホテル日航金沢・ホテル金沢・金沢市アートホール

※裏面に、嚥下食約束食事箋の変更点を具体化しています。

従来の基準

食種名称	食形態	kcal	使用目的
嚥下訓練食Ⅰ	ゼリー	100 ~300	開始食 (絶食より開始する場合)

名称変更 →

嚥下訓練食Ⅱ	ゼリー &とろみ	600 ~1000	Ⅰが摂取可能な場合 Ⅱが可能であればⅢへ
--------	-------------	--------------	-------------------------

廃止

追加

嚥下訓練食Ⅲ	ゼリー &とろみ	1500	Ⅱが摂取可能な場合 Ⅲが可能であればⅣへ
嚥下訓練食Ⅳ	きざみと ろみ	1700	Ⅲが摂取可能な場合 Ⅳが可能であれば普通食へ

名称変更 →

名称変更 →

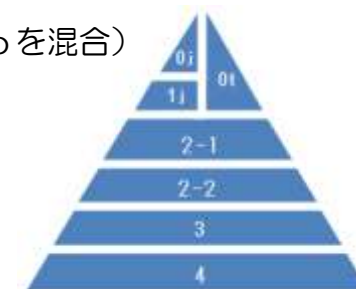
新しい基準(案)

食種名称(仮称)	食形態	kcal	使用目的	学会分類2013
嚥下訓練食 j	ゼリー	100	開始食(絶食より開始する場合) ゼリーによる直接訓練をする場合	0 j
嚥下訓練食 t	とろみ	100	開始食(絶食より開始する場合) とろみによる直接訓練をする場合	0 t
嚥下調整食 1 j	ゼリー	1000 ~1600	ゼリー形態のみで継続的に管理する場合	1 j
嚥下調整食 2 a	とろみ (薄い)	1000 ~1600	薄いとろみ形態のみで継続的に管理する場合	2-1
嚥下調整食 2 b	とろみ (中間)	1000 ~1600	中間的なとろみ形態のみで継続的に管理する場合	2-1
嚥下調整食 2 c	とろみ (濃い)	1000 ~1600	濃いとろみ形態のみで継続的に管理する場合	2-1
嚥下調整食 3	ゼリー &とろみ	1000 ~1600	ゼリー・とろみ形態で継続的に管理する場合	1 j & 2-1
嚥下調整食 4	きざみとろみ	1200 ~1700	きざみとろみ形態で継続的に管理する場合	3

変更内容

- 嚥下訓練食Ⅰは、嚥下訓練食 j (jelly:ゼリー)に名称変更
(内容は従来と同じ)
- 嚥下訓練食 t (thick:とろみ)を、追加
- 嚥下訓練食Ⅱは、廃止
- 嚥下調整食 1 j を、追加
- 嚥下調整食 2 を追加
- 嚥下調整食 2 は、とろみ程度により3段階
(a:薄い、b:中間、c:濃い)とした

- 嚥下訓練食Ⅲは、嚥下調整食 3 に名称変更
(内容は、嚥下調整食 1 j ・嚥下調整食 2 b を混合)
- 嚥下訓練食Ⅳは、嚥下調整食 4 に名称変更
(内容は従来と同じ)



学会分類 2013 図 抜粋

※当センターの食種名称と学会分類 2013 で使用されている名称と違った部分があるので注意が必要